

2016年3月期 決算説明会
東京製綱株式会社
(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2016年5月27日

目次

1. 2016年3月期決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

1. 2016年3月期決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

2016年3月期 決算ポイント

海外橋梁大型案件（イズミット湾横断橋）の終息により減収も、
全セグメント黒字化により営業損益は増益

売上高 652億81百万円〔前期比 Δ 11.0%〕

前期の海外橋梁大型案件の終息および
国内・中国における市況の悪化に伴うタイヤコード販売減等により減収

営業利益 43億3百万円〔前期比 $+$ 9.0%〕

資源安等による製造コスト減少、販売ミックスの改善により増益

**親会社株主に
帰属する当期純利益** 26億73百万円〔前期比 Δ 30.0%〕

外貨建債権の評価替えに伴う為替影響が対前期比 Δ 18億円、
一方、法人税等調整額は、繰延税金資産の計上により損益上プラスへ

2016年3月期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	15年3月期		16年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	73,315	—	65,281	—	△8,034	(△11.0%)
営業利益	3,948	(5.4%)	4,303	(6.6%)	+355	(+9.0%)
経常利益	4,444	(6.1%)	3,021	(4.6%)	△1,423	(△32.0%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,822	(5.2%)	2,673	(4.1%)	△1,149	(△30.0%)

セグメント別の状況(売上高)

鋼索鋼線：海外エレベータ用ロープ、繊維ロープともに増収

スチールコード：市況悪化に伴うタイヤコード販売数量減により減収

開発製品：海外橋梁案件終息の反動により減収

その他：原油安の影響により石油製品が減収

(金額:百万円)

	15年3月期		16年3月期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	28,100	(38.3%)	28,788	(44.1%)	+688	(+2.4%)
スチールコード	15,090	(20.6%)	13,038	(20.0%)	△2,052	(△13.6%)
開発製品	19,789	(27.0%)	14,898	(22.8%)	△4,891	(△24.7%)
不動産	1,143	(1.6%)	1,272	(1.9%)	+129	(+11.3%)
その他	9,191	(12.5%)	7,284	(11.2%)	△1,907	(△20.7%)
合計	73,315	(100.0%)	65,281	(100.0%)	△8,034	(△11.0%)

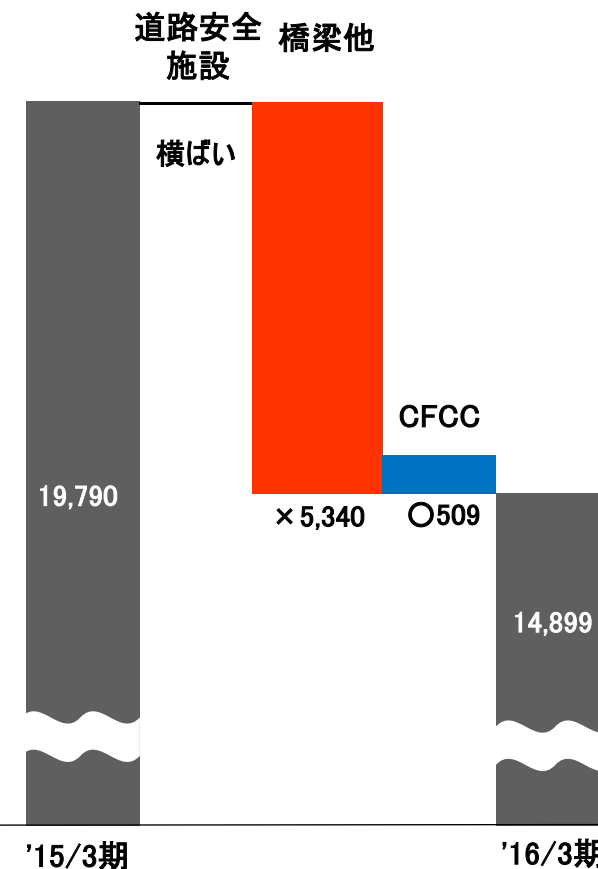
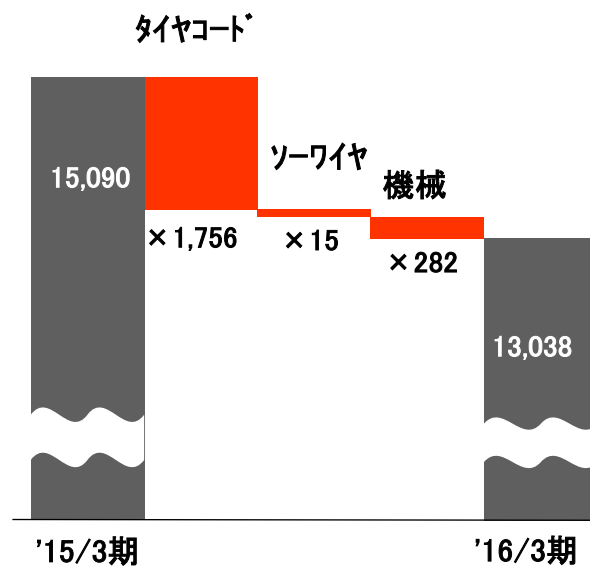
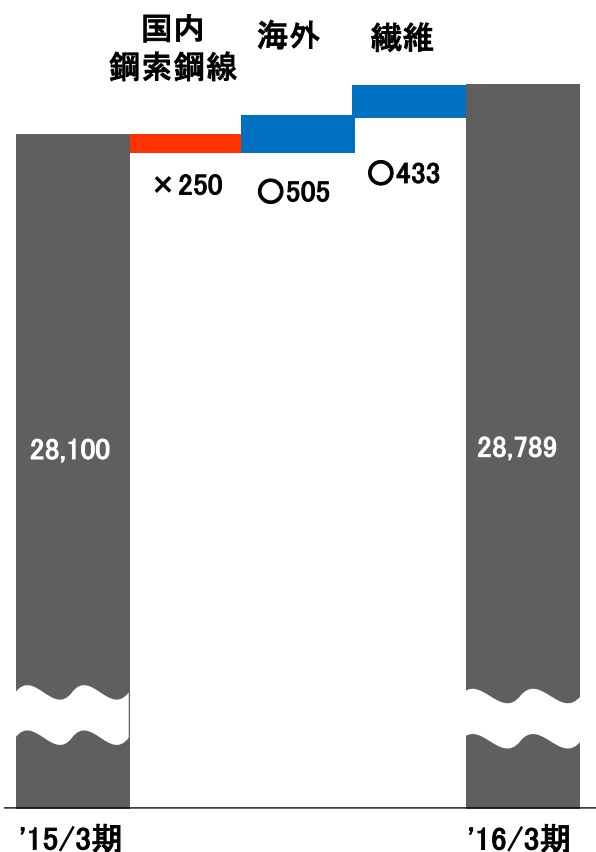
増減要因分析(売上高)

(単位:百万円)

鋼索鋼線

スチールコード

開発製品



セグメント別の状況(営業利益)

鋼索鋼線：資源安等による製造コスト減および増収効果により増益

スチールコード：資源安等による製造コスト減および販売ミックス改善により増益

開発製品：CFCC売上拡大により寄与も、橋梁大型案件終息により減益

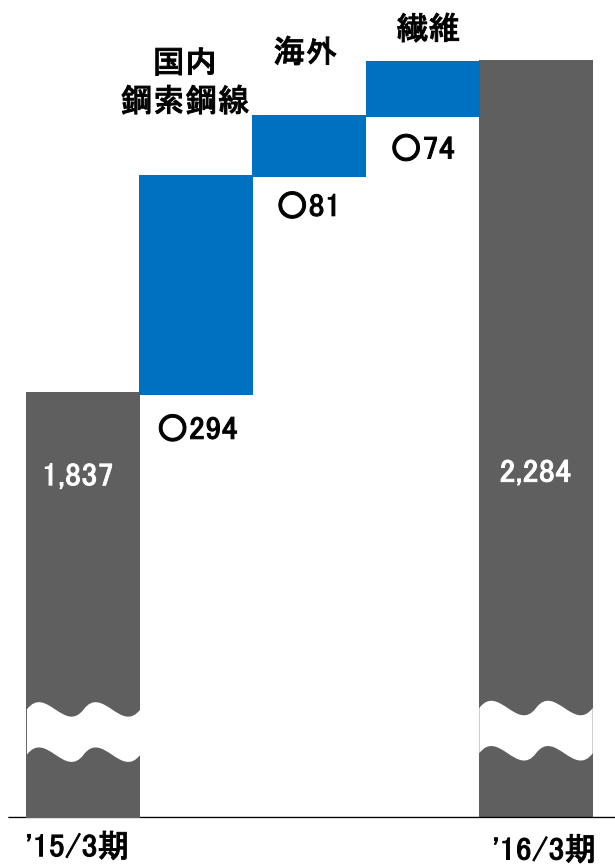
(金額:百万円)

	15年3月期	16年3月期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	1,834	2,284	+450	(+24.5%)
スチールコード	582	777	+195	(+33.5%)
開 発 製 品	1,075	658	△417	(△38.8%)
不 動 産	△43	125	+168	-
そ の 他	499	458	△41	(△8.2%)
合 計	3,948	4,303	+355	(+9.0%)

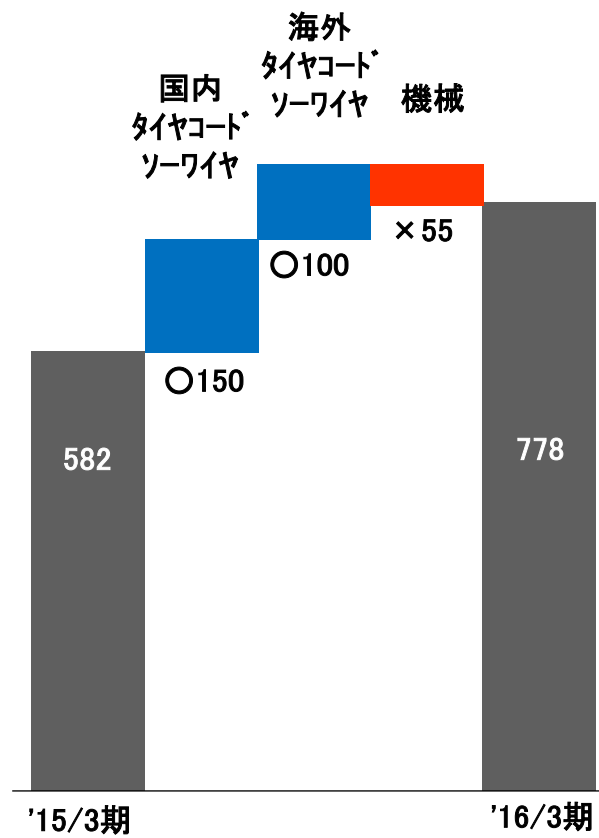
増減要因分析(営業利益)

(単位:百万円)

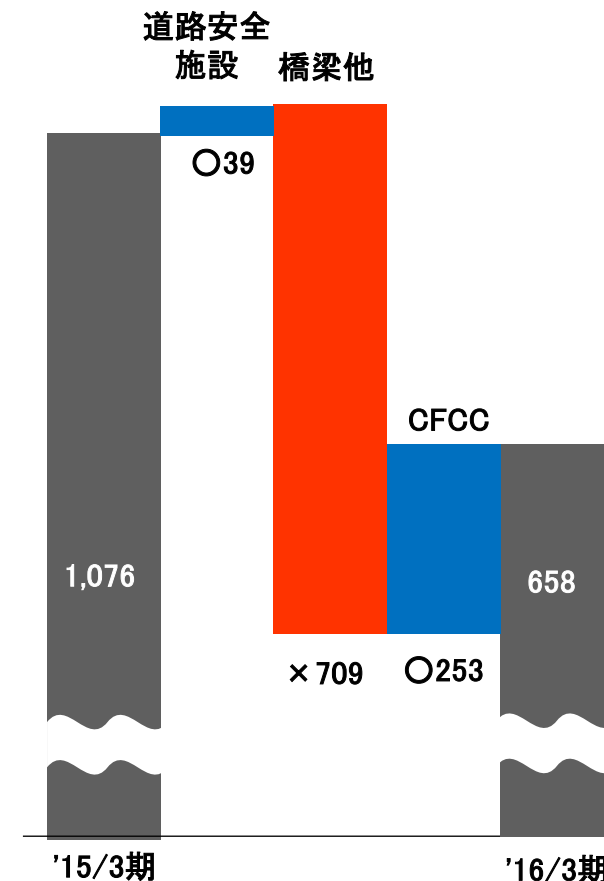
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



キャッシュ・フロー

営業活動：概ね期間損益および減価償却費見合い
(前期は橋梁大型案件の影響あり)

投資活動：国内・海外で固定資産取得

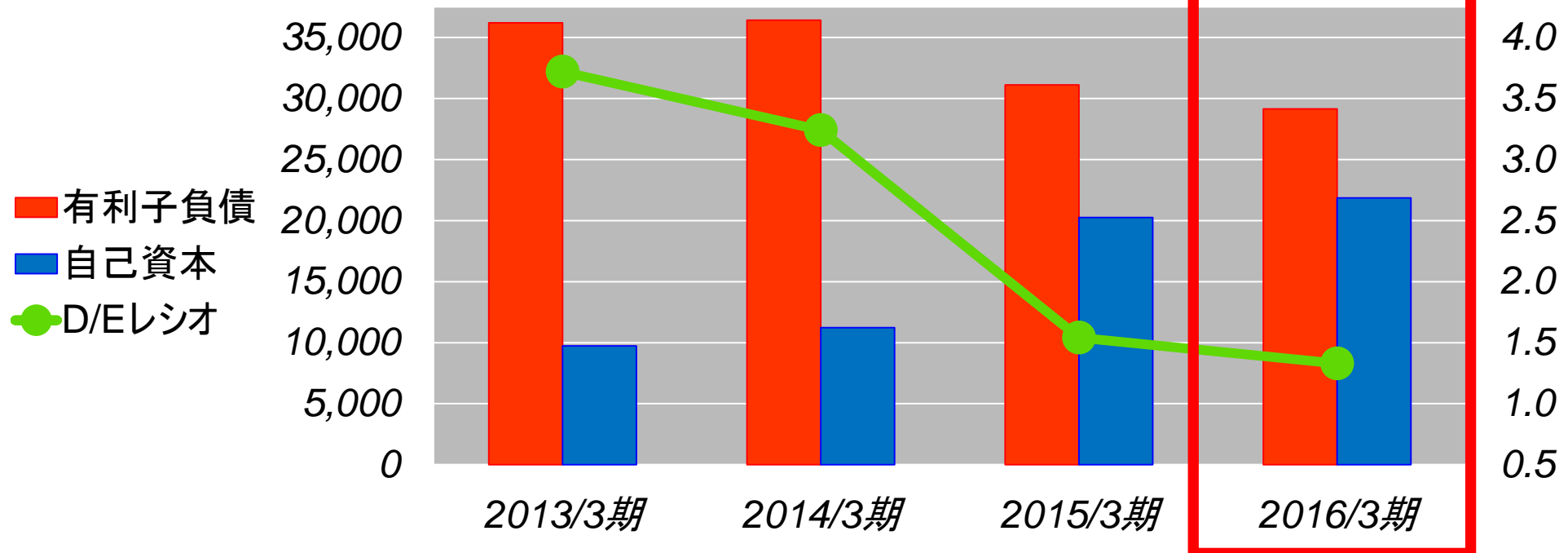
財務活動：種類株式の取得・消却(△30億円)、公募・売出による自己株式の処分(+33億円)。他、有利子負債圧縮に注力(△20億円)

(金額:百万円)

	15年3月期	16年3月期
現金及び現金同等物の期首残高	2,172	4,649
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,844	4,240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,744	△ 2,166
フリー・キャッシュ・フロー	6,100	2,074
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,525	△2,087
その他(為替換算差、新規連結に伴う増加他)	△95	△65
現金及び現金同等物の期末残高	4,649	4,569

財務状況

(百万円)	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
有利子負債	36,204	36,417	31,126	29,145
自己資本	9,737	11,226	20,262	21,860
D / E レシオ	3.72	3.24	1.54	1.33



公募・売出による調達資金の使用状況

開発製品：北米CFCC工場を建設。2017年3月期中に稼働予定。

鋼索鋼線：国内マザー工場における生産能力増強を実施。
ITシステム更新は2017年3月期に着手。

その他：精密切削工具用素材の新工場を建設。稼働開始。

(金額:百万円)

セグメント	資金使途	投資予定額	2016年3月期 投資実績	完了予定年月
開発製品	CFCC生産能力増強	1,296	652	2018年12月
鋼索鋼線	国内生産能力増強	208	60	2017年3月
鋼索鋼線	ITシステム更新	430	9	2018年3月
その他	精密切削工具用素材 生産能力増強	399	399	2016年2月
合	計	2,333	1,120	

1. 2016年3月期決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

2017年3月期 見通し

中国景気減速等による鋼索製品の減収を見込むものの、海外向けの防災製品およびインドネシア向け炭素繊維ケーブルの販売増により全体としては若干の増収増益を見込む

(金額:百万円)

	16年3月期		17年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	65,281	—	66,000	-	+719	(+1.1%)
営業利益	4,303	(6.6%)	4,400	(6.7%)	+97	(+2.3%)
経常利益	3,021	(4.6%)	3,800	(5.8%)	+779	(+25.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,673	(4.1%)	2,700	(4.1%)	+27	(+1.0%)

2017年3月期 主要製品見通し(対前年度比)

鋼 索 鋼 線

【国内ワイヤロープ】 円高等を背景とした国内需要動向悪化を見込む

【海外エレベータ用ワイヤロープ】 中国経済減速に伴う需要減

【繊維ロープ】 前期の大型案件が終息するものの、需要は例年並み

ス チ ール コ ード

【タイヤコード・ソーワイヤ】 中国タイヤコードの選別受注により販売減。極細ワイヤは堅調

【産業機械】 前期受注したワイヤソー売上を期ズレ計上

開 発 製 品

国内の公共工事案件は引続き弱含みだが、海外向け防災製品の販売増
およびインドネシアの送電線向け炭素繊維ケーブルの販売増を見込む

2017年3月期 セグメント別見通し(売上高)

鋼索鋼線：国内需要減退の見込に加え、中国エレベーターロープ市況悪化

スチールコード：選別受注により中国タイヤコードは減収も、ワイヤソーの期ズレにより増収

開発製品：海外の防災製品・インドネシアのCFCCの販売増により増収

その他：精密切削工具用素材の拡販等により増収

(金額:百万円)

	16年3月期		17年3月期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	28,788	(44.1%)	27,100	(41.1%)	△1,688	(△5.9%)
スチールコード	13,038	(20.0%)	14,100	(21.4%)	+1,062	(+8.1%)
開発製品	14,898	(22.8%)	15,600	(23.6%)	+702	(+4.7%)
不動産	1,272	(1.9%)	1,300	(2.0%)	+28	(+2.2%)
その他	7,284	(11.2%)	7,900	(12.0%)	+616	(+8.5%)
合計	65,281	(100.0%)	66,000	(100.0%)	+719	(+1.1%)

2017年3月期 セグメント別見通し(営業利益)

鋼索鋼線：国内・海外の売上減により減益

スチールコード：高採算製品への受注シフト、ワイヤソーの期ズレにより増益

開発製品：公共工事弱含みも海外防災製品・CFCCの増収により増益

不動産：コスト減により増益

(金額:百万円)

	16年3月期	17年3月期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼索鋼線	2,284	1,800	△484	(△21.2%)
スチールコード	777	1,100	+323	(+41.6%)
開発製品	658	700	+42	(+6.4%)
不動産	125	300	+175	(+140.0%)
その他	458	500	+42	(+9.2%)
合計	4,303	4,400	+97	(+2.3%)

配当方針

16/3期：4.0円の配当を実施

17/3期：4.0円の配当を予想※

年 度	15/3期	16/3期	17/3期
配 当（年 度 当 り）	無配	4.0円	予想 (4.0円)
配 当 性 向（連 結）	—	(24.0%)	(24.1%)

※株式併合前の1株当たり配当

…当社は、単元株式数の変更（1,000株から100株）、および株式併合（10株を1株）の議案を2016年6月28日開催予定の定時株主総会に付議することを決議いたしました。

詳しくは2016年5月23日公表の適時開示情報をご確認ください。

1. 2016年3月期決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

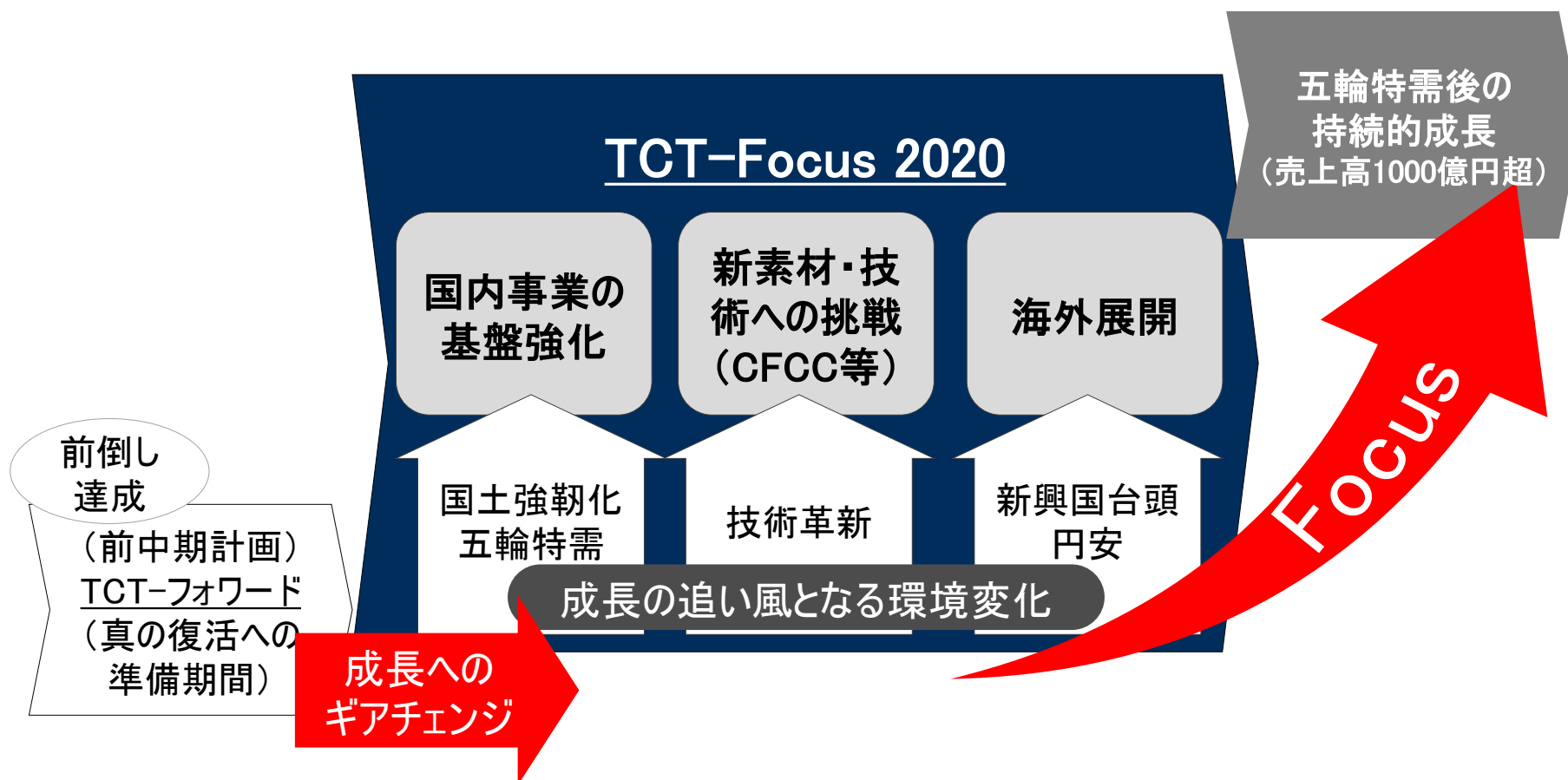
中期経営計画の基本コンセプト

五輪特需が終息する2020年以降の持続的成長を見据え、その礎を固める中期経営計画。
この実現に向け、「国内事業基盤の強化」、「新素材・新技術への挑戦」、「海外展開」の3点にフォーカスして、
全事業の活性化に当社グループ一丸となって挑戦する

～2014年

2015年～2019年

2020年以降



中期経営計画 “Focus 2020”を構成する5つの主要施策

鋼索鋼線	F oreign	<ul style="list-style-type: none"> ・セグメントの<u>海外売上比率25%</u>を目指す(2015年3月現在:17%) <ul style="list-style-type: none"> - <u>エレベータロープ</u> 中国における当社ロープ採用機の交換需要を捕捉、加えて緊密販売先の拠点拡充(東南アジア・インド等)にも対応する - <u>繊維ロープ</u> 海洋国家のロープメーカーとして125年の業歴で培った技術を活かし、世界の船舶・海上構造物用スーパー繊維ロープ市場に進出する
S C	O utclass	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度ワイヤに極細伸線技術を応用し、ファインワイヤ製品等の<u>高付加価値品</u>を強化し、製品種の拡充と利益率向上を図る
開発製品	C FCC	<ul style="list-style-type: none"> ・スチールよりも軽量・高強度な<u>CFCC®</u>(炭素繊維複合材ケーブル)の特性を生かし、スチールワイヤ製品の置換を図る
	U tilities	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で好評価を得ている防災製品を、中央アジア・中東諸国の<u>公共施設・機関</u>に展開し、イスラム圏でのデファクト化を狙う
その他	S peed	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の日本特殊合金は、ニッチではあるが世界的に需要が見込まれる精密切削工具用素材の外販に注力し、<u>5年間で売上高倍増</u>を図る

現段階で進捗する3つの施策についてご説明

鋼索鋼線	Foreign	<ul style="list-style-type: none"> ・セグメントの<u>海外売上比率25%</u>を目指す(2015年3月現在:17%) <ul style="list-style-type: none"> - <u>エレベーターロープ</u> 中国における当社ロープ採用機の交換需要を捕捉、加えて緊密販売先の拠点拡充(東南アジア・インド等)にも対応する - <u>繊維ロープ</u> 海洋国家のロープメーカーとして125年の業歴で培った技術を活かし、世界の船舶・海上構造物用スーパー繊維ロープ市場に進出する
S C	Outclass	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度ワイヤに極細伸線技術を応用し、ファインワイヤ製品等の<u>高付加価値品</u>を強化し、製品種の拡充と利益率向上を図る
開発製品	CFCC	<ul style="list-style-type: none"> ・スチールよりも軽量・高強度な<u>CFCC®</u>(炭素繊維複合材ケーブル)の特性を生かし、スチールワイヤ製品の置換を図る
その他	Speed	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の日本特殊合金は、ニッチではあるが世界的に需要が見込まれる精密切削工具用新素材の外販に注力し、<u>5年間で売上高倍増</u>を図る

1. 海外展開

- 初の量産案件：インドネシア送電線向（メダンプロジェクト※）の納入完了。次期プロジェクトに向け生産開始
- エジプト送電公社・同国電線メーカーとMOUを締結。パイロットプロジェクト実施を合意。エジプトのインフラ整備促進への貢献を企図

※北スマトラ メダン市周辺の増容量プロジェクト。当社は2区間（亘長112km）を受注。一部通電開始



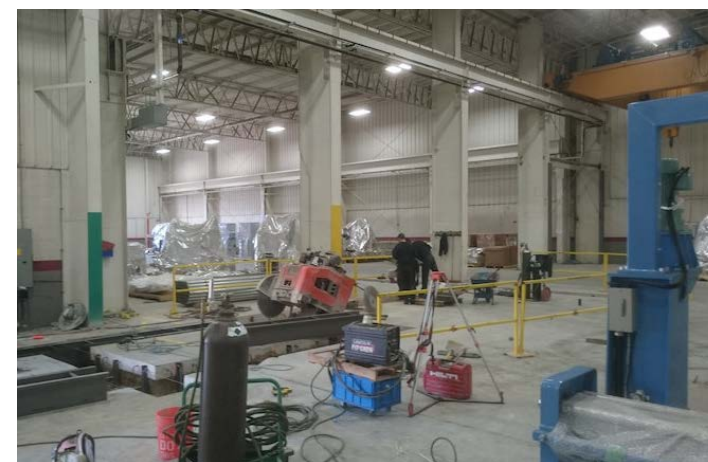
エジプト送電公社総裁、当社社長

2. 生産体制

- 国内工場(愛知県蒲郡市)の追加能力増強を実施
- 北米工場の立上げは順調に進捗第3四半期より稼働開始
- 年内に複数の北米土木案件の売上を見込む



北米CFCC工場(ミシガン州)外観



北米CFCC工場内(立上準備中)

防災製品の海外拡販 進捗状況(1)

1. 中東

- サウジアラビア・メッカ近郊において落石防護ネットのデモ施工を完了。2016年度中の受注を目指す

2. 西・中央アジア(1)

- 2016年5月にジョージア国を訪問
ギオルグ・クビリカシビリ首相と面談
- JICA「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」にてジョージア国での事業進行中



サウジアラビア・メッカ近郊のデモ施工

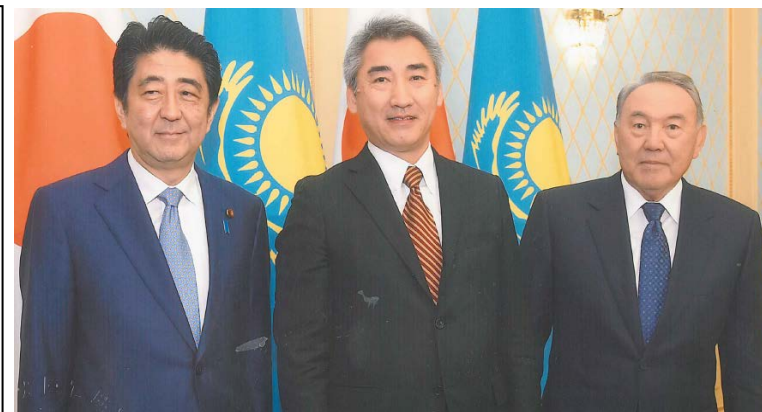


当社会長、クビリカシビリ首相(ジョージア)

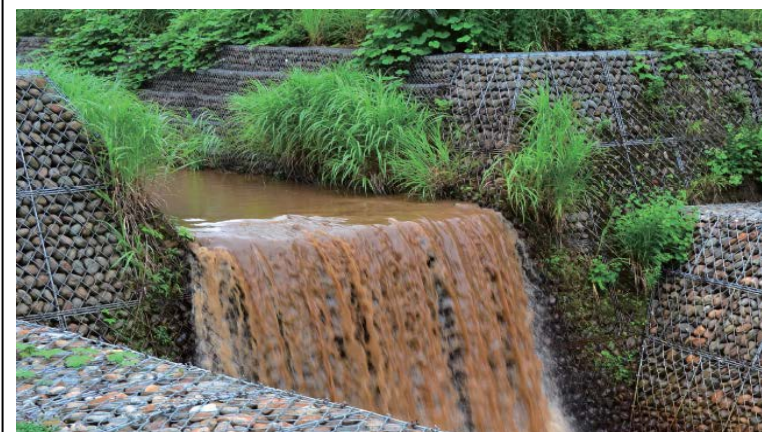
防災製品の海外拡販 進捗状況(2)

3.西・中央アジア(2)

- カザフスタン共和国アルマティ市において現地法人(工場)を設立
(2016年3月)
防災製品を製造・販売
- 2016年7月より業務開始予定。年間売上は数億円規模となる見通し



2015年秋 安倍首相の中央アジア歴訪に随行
(中)当社社長、(右)ナザルバエフ大統領(カザフスタン)



防災製品施工例

Speed

精密切削工具用素材の拡販 進捗状況

1. 愛知県蒲郡市の所有地内にて新工場が建設完了し、新技術採用の設備を導入。5月より稼働開始
2. 2016年度は新規受注による生産量増加を見込む
3. 高度先端技術を対象とする「新あいち創造産業立地補助金」の補助対象案件に採択



新工場設備



当社製品イメージ

当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿

●定性的目標

2020年以降の持続的成長にフォーカスし、その礎を築くべく、「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」によって、グローバル市場での競争力強化を図り、より一層社会に貢献できる企業価値の高いエクセレントカンパニーとなることを目指す

●計画最終年度の定量目標(20/3期) [2015年5月発表数値]

売上高	900億円以上	海外売上比率	25%以上 (例年13%の約2倍)
営業利益	78億円以上 (15/3期実績の倍)	EBITDA	100億円以上
ROE	14%以上 (財務体質改善との両立を目指す)	D/Eレシオ	0.6以下 (ROEの維持との両立を目指す)

●2016年3月期実績

中期経営計画で設定した初年度の各経営指標目標に対して概ねオンラインで推移。

	ROE	海外売上比率	EBITDA	D/Eレシオ
2016年3月期目標値	12.0%	14.0%	63億円	1.19
2016年3月期実績	12.4%	15.9%	64億円	1.33

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。